

「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」での主な議論

(2017 (H29) . 6. 7 (水) /文化振興課)

1 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会

《開催目的等》		
○ 北海道150年（平成30年）を迎えるにあたり、百年記念施設（北海道博物館／北海道開拓の村／北海道百年記念塔）を将来に向けて、どのように後世に伝えていくことが相応しいのかを学識経験者等から幅広く意見を聴取するために開催。		
○ 平成28年9月30日に設置し、現地調査を含め、これまで懇談会を3回開催。		
《構成員（敬称略）》		
臼井 栄三（座長／（国）北海道教育大学岩見沢校特任教授）	中田美知子（（学）札幌大学客員教授）	山崎 幹根（（国）北海道大学大学院法学研究科教授）
戎谷 侑男（（株）シーピーツアーズ代表取締役社長）	西 吉樹（（一財）北海道歴史文化財団業務執行理事法人本部長）	
佐々木亮子（（有）アールズセミナー代表取締役）	西山 徳明（（国）北海道大学観光学高等研究センター長）	
		《開催実績》
		第1回 平成28年10月28日
		第2回 平成28年11月26日（現地調査含む）
		第3回 平成29年 2月17日

2 現状と課題、今後の方向性に関する主な意見

区分	意見概要	
	現状・課題	今後の方向性
周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・記念施設へのアクセスの悪さを解消することが必要。(第1回) ・愛称も含め、飛び込んでいこうとか売り込んでいこうとかの姿勢をあまり感じない。(第1回) ・公園自体が閑散としている。公園に人が足を運ぶ環境、近郊の住民が使えらる環境があるとイメージが変わってくる。(第2回) ・森林公園駅や高速道路の出口等に百年記念施設への案内表示を行うなど、きてもらうための環境づくりが必要。(第2回) ・事業実施に当たって、大学生、市町村や民間と連携することは、非常にすばらしいこと。イベントのように2、3年たったら終わってしまったということがないように、中長期的にやっていけるよう工夫が必要。(第3回) ・中長期的な事業展開として継続性を持たせ、かつ、発展をさせるとなれば、相手方にもメリットがなければならぬ。(第3回) ・誰がどの様に協力してくれたかがわかる（寄付者やボランティア）と、もっと頑張ろうという気持ちになる。(第3回) ・事業の位置づけについて、観光に有効だからいうところを考えるのか、もっと本質的に、北海道の財産として、守っていかなければならないというところに力点を置くのかで、組み立てが違ってくる。(第3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園全体をどう見るか。ゾーンとしての視点に立つことが大事。その上で、記念施設地区にある3施設にどのような機能を持たせて残すべきかを議論すべき。(第1回) ・博物館も村も単に歴史的なものを展示していればいいというものではなく、ミクロの視点で人を惹きつけるものを考えるべき。(第1回) ・条例や規則等を緩和することで地域住民が利用し、閑散としたところに動態的な部分を感じられる事業展開も考えられる。(第2回) ・4年間の指定管理者制度のあり方自体を考え直していかなければならないという問題提起をしておく必要があるのではない。(第3回) ・PF1事業で事業募集をして、リノベーションとオペレーションを任せる。記念塔、開拓の村、博物館をつつと切り離して考えてもうまくいかない。セットで考えて、150年を契機とした大文化事業、北海道の文化観光という新しいステージを切り拓くようなことをやれば、日本中から応募があるかもしれない。(第3回) ・近隣の利用者が少ないと、公園の賑わいが無い。学校行事で利用していたいいるがお弁当を食べる程度。公園の利用について規制を見直す必要がある。(第3回) ・公園全体を一つとしてとらえた取組が重要。全体で物事を考えれば、ファンディングも含め、整備など見方も変わってくる。(第3回)
北海道博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・必死になって人を呼びこむという意識が感じられない。(第1回) ・博物館としての機能を大事にするのか稼げる施設にするのか、それによって組み立て方が違ってくる。(第1回) ・明るく新しくリニューアル効果を実感した。Wi-Fiを使った多言語対応のガイドなど工夫されている。また、テーマ別に特色を出した展示、子どもを含めた色々な世代に対応した工夫をしている。(第2回) ・展示の流れや展示手法がすばらしい。漂着物の展示も意外性があって非常に良いアイデア。(第2回) ・もう少し近代の100年、150年といった北海道発展の歴史みたいなものを実感できる様な見せ方もあって良い。(第3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人を惹きつけ人々の感覚を吸収することが必要。(第1回) ・外国人の観光客をどれだけ多く呼び込めるかが鍵。(第1回) ・この50年で歴史化したものなど新しい視点でのコンテンツの収集・展示という切り口もある。(第1回) ・近代以降の展示は、本道の発展や特徴を出す見せ方、切り口もある。(第2回) ・歴史学関係の学会の発表の場のサテライトのようなところに使えば。(第3回) ・売店などを充実させることを考えることも重要。あらゆるグッズがあつて、とにかく土産物を買わせる、もっともお金を落とさせるといい。(第3回) ・寄付者や寄付団体の感謝の意を表すような表示など、お金を集められる工夫はあり得る。(第3回)
北海道開拓の村	<ul style="list-style-type: none"> ・時代にフィットしていかなければならない。(第1回) ・愛称をつけるという動きがあっても良かったのではないと思う。(第1回) ・指定管理者制度に問題がある。指定管理を任せられる限られた期間では種々制約があり、やれることに限界がある。(第1回) ・村は、歴史的建造物そのものも、開拓以来30年以上にわたって維持してきたことも、大変すばらしい。潜在的な魅力、工夫の余地、可能性が大いにあると再認識した。(第2回) ・馬車鉄道は走っているものの、動態展示が欠けている。(第2回) ・村の建造物に思い入れが感じられると光って見える。解説をする人が最も重要で、なるほどと実感させてくれるポイントを聞かせてくれる、言葉の力がある。(第2回) ・開拓の村は抱えている資産の重さを考えれば、小手先では絶対だめで、今のままで施設の修繕、改修を行っていけば道の財政が逼迫していくのは目に見えている。(第3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・街並みが整頓されていて殺風景を感じる。賑わいや生活感が表れるような工夫が必要。(第2回) ・もっと人が集えば建物が生きてくる。どう使ったら良いか、生かし方を研究することが必要。(第2回) ・150年に併せて作業体験ができる補修整備のボランティア作業員を参加料をもらって募集してはどうか。(第2回) ・各市町村とリネージュして、開拓の村に市町村の観光関係者が時々常駐し自分たちの市町村を売り込むようなネットワークをつくれないう。(第2回) ・修繕が必要な建物をクラウドファンディングで募集して復興させるような周りを巻き込む動きが作れない。(第2回) ・今の人たちは何かで参加したり体験したりしたい、そういうことを考えることが必要。(第2回)
北海道百年記念塔	<ul style="list-style-type: none"> （銅片の落下により、平成26年7月から立入禁止） ・シンボルタワーだが、人を呼び寄せるための経費をかけている印象はない。ランドマークでしかない。札幌に帰ってきたことを知らせるモニュメント。スカイツリー等を見慣れている中では、塔はそれほどものではない。(第1回) ・百年記念塔に限っていうと、方向は3つ。壊すか、高い経費をかけて補修するか、メモリアルを何かつくる。(第1回) ・モニュメントやランドマークとしてかなり親しんでいる人がいて、なくなると、あのエリアに対する認知が薄くなる。(第2回) ・モニュメンタルなものを建てることは、社会的・公益的責任を負った判断であり、お金の問題だけではなく、建てた理由、趣旨が本当に失われたのか、達成されたのかなど調べる必要がある。(第2回) ・モニュメントでありシンボルタワーであるが、躯体が朽ちていることを実感し、維持していくのは相当危険と実感した。モニュメントは、場合によっては心の中に残らないものかもしれない。(第2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置目的やその魂を、どう残すかが重要。(第1回) ・塔の建設費の半分が道民の寄付で賄われていることから、これらの人々に対する対応や関係者への説明を行い、必要で無いと判断されれば壊すことになる。(第1回) ・多くの人の気持ちの総意でできたものは、十分な審議を経て判断する必要がある。(第1回) ・観光の力がこれから大きくなる中で、このエリアの魅力をより発展させる形で考え、その中でモニュメントとしての塔をどうするかということが必要。(第2回) ・あと数年経てば50年過ぎて、近代遺産的な扱いとして登録していくこともあり得る。それくらいの幅の中で考え、どうしてもやむを得ないということであれば、道民に説明していくことが必要であろう。(第2回) ・塔の中に入ることはそれほど重要視しないが、モニュメントとしてその時代に意図を持って建てたものに対して責任がある。(第2回) ・撤去するしか方法はないと思うが、つくった人の思いや夢や情熱を感じ、その精神性をどういう形で表現するか、大きな課題として残る。つくった目的や関係者の名前、佐藤忠良さんの作品や百年記念塔の形など記念碑や何かの形で表現し、それにかわるものと考えなければならぬ。(第2回) ・これから50年、80年残せるか考えるとかなり厳しい。150年の年に作業現場を見学可能とした解体をし、2万本程度の桜の植樹をして、縦の100mから横に100mといった垂直なものから水平に、桜の名所にしては良いのではないかと。(第2回)

《これまでの意見整理》
<p>【周辺エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野幌森林公園全体を一つのゾーンとして捉え、全体的な視点で、議論を進めることが必要。 ○ 公園利用の規制緩和や管理運営制度の見直しを図ることで、より多くの利用者を呼び込める可能性がある。 ○ 周辺の大学、市町村、民間企業などとの連携事業に継続性を持たせることが必要。 ○ 交通アクセスの見直しや案内板の整備など、利用者のサービスの向上に努めるとともに、近郊の住民が利用しやすい環境づくりを進めて欲しい。 ○ 歴史的なものの展示のほか、人を惹きつける様々な切り口があつて良い。 <p>【北海道博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Wi-Fiを使った多言語対応のガイドや展示の内容、展示手法はよく工夫がされている。 ○ 売店等の充実や施設の有効利用を進め、収益力を強化することで、指定管理者のインセンティブを高めるとともに、施設の付加価値を向上。 ○ 寄付者や寄附団体に感謝の意を表すような表示など、資金の集め方について、工夫の余地がある。 ○ 近代の100年、150年といった歴史を実感できる見せ方があつても良い。 <p>【北海道開拓の村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 潜在的な魅力、工夫の余地、可能性を再認識。 ○ 施設の修繕、改修の方法について、外部資金、民間活力、ボランティア活用を含め、検討を進めて欲しい。 ○ 動態展示、賑わいや生活感が表れる展示、体験型の工夫が必要であるとともに、展示建造物の活かしか方の検討が必要と考える。 <p>【北海道百年記念塔】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モニュメンタルなものを建てることは、社会的・公益的を負った判断であり、老朽化が進んではいけないもの、建てた理由、趣旨が本当に失われたのかを検証する必要がある。 ○ 仮に撤去するとした場合、建築に携わった方々の思いや情熱を感じ、その精神性をどういう形で引き継ぐのが、大きな課題。 ○ 十分な審議を経て判断する必要がある。